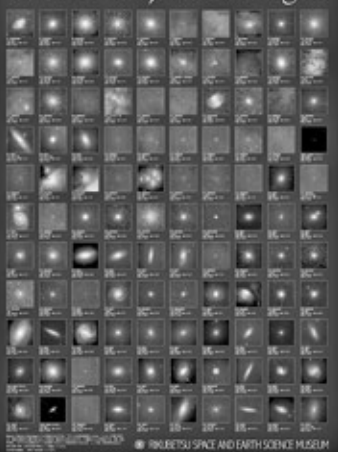




天文台だより

銀河の森天文台
2022 夏号
Vol. 96

Messier Objects Catalogue



天文台オリジナルメシエ天体ポスター完成！

銀河の森天文台オリジナルのメシエ天体カタログポスターが完成しました。画像はすべて天文台で観測したものです。

メシエ天体とは、フランスの天文学者シャルル・メシエ(1730-1817)が作成した天体カタログに掲載されている110個の天体のことです。このカタログは、彗星探しの際に紛らわしい天体区別するために作られました。カタログに掲載されている天体は、Mの後にカタログ番号を付けて、M1、M2、・・・～M110と呼ばれています。ただし、110天体の内、M40、M91、M102の3天体はカタログの観測データが怪しく、対応天体には諸説あります。

完成したポスターは現在のところ非売品で館内で展示しています。各々のメシエ天体画像は、天文台ホームページの「天文ギャラリー」に掲載しています。

「ごあいさつ」



館長
津田浩之(双子座)

4月1日付で館長に着任しました。

子供の頃から天体観測を趣味として星を眺めていました。昭和60年に陸別町役場に勤務して、星空の街コンテストに参加、平成元年の低緯度オーロラ観測、その後、りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)建設の計画からオープンまで天文台職員として、昨年からは、館長代理として運営に関わってきました。

当館は、天文台と大気観測を行う大学等研究機関の観測施設を併せ持つ特徴的な施設です。数十億光年から上空数キロメートルを観測していることとなります。そのなかで天文台の役割としては、陸別町の立地を活かした美しい星空、低緯度オーロラの観測、115センチりくり望遠鏡による銀河、恒星、惑星、彗星、月や人工衛星の追尾観測、太陽望遠鏡による太陽の観測など実体験を提供することです。都市部では観望がむずかしい天の川、流星観望も可能です。ビックイベントとしては、8年後の2030年6月1日には北海道を横断する金環食が起こります。天候次第ですが、当館でも金環食を見ることが出来ます。

このように、その時々天文現象を皆さんにお届けできればと思います。

また、陸別町や銀河の森天文台のファンクラブ的な組織づくり、映像配信などにも積極的に取り組みたいと考えています。

夏のイベント情報 !!

☆天の川と夏の天体観望会

イベントの間中は月明かりの影響が少なく、暗い夜空に天の川を楽しめます。望遠鏡では天の川周辺の夏の天体を観望します。ぜひ、ご来館ください。

開催日: 7月20日(水)~31日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆ペルセウス座流星群観望会

今年のペルセウス座流星群は8月13日午前10時に極大時刻を迎えます。流れ星が多いと予想されるこの期間に観望会を開催します。

開催日: 8月12日(金)~14日(日)

説明会: 午後7時30分から

☆土星と夏の天体観望会

見頃を迎える土星と夏の天体を観望します。望遠鏡では、土星の輪などじっくり観察することができます。

開催日: 8月15日(月)~28日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆名月観望会

今年の中秋の名月は9月10日で満月です。ぜひ、お月見にご来館ください。

開催日: 9月9日(金)、10日(土)

説明会: 午後7時30分から

☆木星・土星と秋の天体観望会

見頃を迎える木星を加え、土星や秋の天体を観望します。ぜひ、ご来館ください。

開催日: 9月14日(水)~25日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜・祝日のみ)

暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
7月 1日	3:44	19:14	2.0	5:05	21:04
7月 15日	3:53	19:08	16.0	20:39	5:05
8月 1日	4:10	18:52	3.4	7:15	20:49
8月 15日	4:26	18:33	17.4	20:23	7:53
9月 1日	4:45	18:05	4.8	9:38	20:19
9月 15日	5:00	17:40	18.8	19:56	10:14

天文行事&暦

7月

- 7 小暑(24節気:太陽黄経105°)
- 14 ○満月
- 20-31 天の川と夏の天体観望会
- 21 火星食
(潜入始23:43、出現終24:32)
- 23 大暑(24節気:太陽黄経120°)
- 29 ●新月

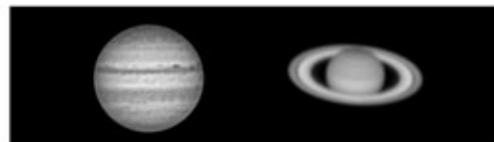
「7月イベント中止のお知らせ」
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月9日(土)に開催を予定していた「第12回陸別スターライトフェスティバル」を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

8月

- 4 旧七夕
- 7 立秋(24節気:太陽黄経135°)
- 12 ○満月
- 12-14 ペルセウス座流星群観望会
- 13 ペルセウス座流星群が極大
(AM10時 最大30個/時)
- 15, 16 天文台特別開館
- 15-28 土星と夏の天体観望会
- 15 土星が衝(0.3等, 視直径18" .8)
- 23 処暑(24節気:太陽黄経150°)
- 27 ●新月
- 28 水星が東方最大離角
(光度:0.3等, 離角:27° .3)

9月

- 8 白露(24節気:太陽黄経165°)
- 9, 10 名月観望会
- 10 ○満月
- 中秋の名月
- 14-25 木星・土星と秋の天体観望会
- 17 海王星が衝(7.8等, 視直径2" .4)
- 23 秋分(24節気:太陽黄経180°)
- 26 ●新月
- 27 木星が衝(-2.9等, 視直径49" .9)



天体そもそも話「流星」

今回は「流星」についてお話しします。流星とは、宇宙空間から飛来した天体が大気圏内で光る現象です。

流星の素は宇宙空間に漂う「流星物質」と呼ばれる、0.03ミリ~1メートル程度の小さな天体です。流星物質が大気圏に高速で突入すると、前方の大気は熱を逃がせないまま圧縮されて温度が上昇します。高温化した流星物質と大気は一旦「プラズマ」という状態になり、プラズマから元の状態へ戻る際に光を放出します。その光が私たちの目に輝く流星として見えるのです。

流星は1ミリ未満の流星物質によるものがほとんどです。流星は流星物質の速度が速いもの、質量が大きいものほど明るくなり、非常に明るい流星は「火球」と呼ばれます。

流星は大まかに分けて、流星群に属する「群流星」とそれ以外の「散在流星」の2種類があります。流星群は毎年同じ時期に多くの流星が流れる現象で、放射点と呼ばれる空の一点を中心にして放射状に流星が流れます。

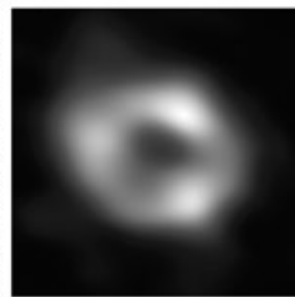
毎年8月13日前後には「ペルセウス座流星群」が見頃となります。流星を探す際は、夜空の暗さに眼を慣らし、街や月の明かりの影響が少ない方向を向き、なるべく広い範囲を見渡すと良いでしょう。(三)

ペッコカめぐり「天の川銀河の中心」

夏は天の川銀河の中心方向が見える季節です。地球から見た天の川銀河の中心は、いて座の矢のちょっと先あたりで、この方角に天の川銀河中心の巨大ブラックホールが存在します。

下の画像は、今年5月に国際研究チーム「イベント・ホライズン・テレスコープ(EHT)・コラボレーション」により発表された天の川銀河中心の巨大ブラックホールの画像です。このドーナツ形の穴の部分にブラックホールが存在し、そのブラックホール(事象の地平面)の直径はドーナツの穴の部分の1/5~2/5程度となります。

さてこのドーナツ形、横から見るとどのような姿に見えるのでしょうか? 答えは、横から見てもドーナツ形! です。なんだか不思議ですね。このドーナツはブラックホールの強い重力により進路を曲げられた光を見ているもので、ブラックホール正面の光はこちらへ向かってくることが出来ないために、どの方角から見ても穴の空いたドーナツ形に見えるという訳です。さすがにこの説明ではイメージしにくいと思いますので、国立天文台の解説動画(QRコード)を見て頂くのがわかりやすいと思います。(中)



天の川銀河中心のブラックホール
(画像: EHT Collaboration)



天文台からのお知らせ

☆ 8月15日、16日は月曜・火曜日ですが、特別開館いたします。

プラネタリウム上映中止のお知らせ

コロナ感染拡大防止のため、コロナ終息までプラネタリウム上映を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp Twitter: @ginganomori_obs

